



本会記事

■女子中高生夏の学校 2019 ～科学・技術・人との出会い～（夏学）」参加報告

「女子中高生夏の学校 2019」が 2019 年 8 月 9 日～11 日に独立行政法人・国立女性教育会館（埼玉県嵐山町）で開催されました。女子中高生夏の学校は 2005 年にスタートし、科学技術振興機構、国立女性教育会館、男女共同参画学協会連絡会などの様々な団体の支援で、大学の教員らによる実行委員会主催で行っている女子中高生の理系進路選択支援事業です(<http://natsugaku.jp/>)。毎回全国から 100 名を超える女子中高生やその保護者、学校の先生が参加する 2 泊 3 日の合宿で、キャリア講演、実験・実習、ポスター展示・キャリア相談、キャリアプランビルディングなどが、女子学生・大学院生 TA のサポート、各学協会などの参加で行われ、女子中高生が自らの理系進路のイメージを持てるような体験、相談ができる場として開催されています。

プラズマ・核融合学会として、合宿の 2 日目、ポスター展示・キャリア相談ブースにおいて、「次世代エネルギー源 核融合とプラズマ」というテーマでポスター展示を行いました。本学会は 2015 年から参加しており、今年は、核融合研から 1 名（芦川先生）、QST から 2 名（柏木先生、古田先生）、東工大から近藤先生、名大から豊田の計 5 名が担当しました。QST からは資料、ITER 建設の様子のパールチャルリアリティ（VR）展示、核融合研と総研大核融合専攻からは資料、クリアファイルの提供とともに真空の様子を見てもらう演示がありました。資料等は、本学会から提供したクリアファイルとともに多くの女子学生に配布されました。

今年の夏の学校には約 100 名の女子中高生が参加し、そのうち約 45 名（保護者等を含む）が、プラズマ・核融合学会のブースに来られました。ブースではエネルギー、核融合、プラズマ、ITER などについて説明を行い、参加女子中高生の皆さんは熱心に質問をしておりました。ITER の建設現場の VR 体験は昨年同様に大人気で順番待ちの状態でした。また核融合研の芦川先生に用意いただいた真空を体感してもらう演示では、容器の中に入れた水が真空引きとともに氷となる現象を見てもらいましたが、この現象を見るのは初めてのようで、驚きと興味で目を輝かせていました。

昨年までと同様、「プラズマ」や「核融合」は良く知らないという生徒がほとんどでしたが、丁寧に説明するとよく理解してくれました。物理に興味のある学生も多く、意識の高い優秀な女子中高生にプラズマや核融合を知ってもらうために、本展示はとても有効です。

ポスター展示の終了後、近藤・プラズマ・核融合学会男女共同参画委員会委員は、学生企画の「GATEWAY」に



参加し、「リケジョのハローワーク」というテーマで女子中高生たちの相談に応じました。“どうしたら研究者になれるのか”、“研究者にはどのような種類があるのか”、“研究者になっても子育てと両立できるのか”などの多くの質問に対して、プラズマ・核融合分野を例に、キャリアパスや男女共同参画をテーマに作製したボードゲームを使いながら答えました。

（プラズマ・核融合学会男女共同参画委員会委員長
豊田浩孝）